

# 令和6年度 つくし組 “人間関係” の育ち

〇1歳以上3歳未満児の「人間関係」における保育のねらいとは？(以下保育所保育指針抜粋)

→ “他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う” ことです。

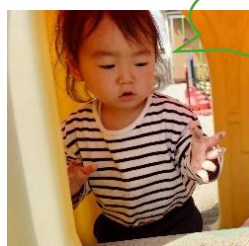
今年度のつくし組の人間関係の育ちを、大きく4つに過程に分けてお伝えいたします。

過程を経て子どもたちが自ら獲得してきた力と、その様子や成長を少しでも感じていただけたら幸いです。

## 1, 進級・入園当初の“人間関係”の入り口は…



テントの中



園庭のハウス



↑ はじめに見つけた“好きな場所”“安心出来る場所”

「一人でじっくり」「自分の興味(好き)を見つけて探索」

「まだどこか不安な表情を見せながらも安心出来る人、場所を見つけていきます」



遊びながらも緊張や

不安をみせる子どもたち…



安心出来る人や場所を探しながら

「一人でじっくり」と自分の好きな

遊びを見つけて楽しめます。この

「一人遊び」で自分の世界を十分に

楽しむことで、今度は他者の存在や遊び

に興味をもつようになり、世界がぐんとひろがるようになります



## 2, 「好きな、安心出来る場所、遊び、時間、人が見つかる」と…



大好きになった給食の時間



隣で新聞紙遊び

「周囲の遊び」に関心をもち、そばにいて同じことを楽しむようになります」



隣で砂場遊び



好きな絵本を友達の隣で

一つの絵本を  
みんなで



好きなせんせい

好きなおねえさん

子どもたちが“隣で”を選んだ時、保育士は必要に応じて互いの仲立ちをし、少しずつ「一緒に楽しいね」という実感へと橋渡ししていきます

花を摘んで「おなじ〜」



### 3. 周囲の人へ抱けるようになった興味や関心は、関りの中で次第にお友達の「好き」や「思い」への気づきに…

「落ちてたよ」「ありがとう」「大丈夫？」…そんな会話が聞かれようなシーンです

が実はこの時、お互いに言葉はありません。けれど互いが互いの思いに気づき通じあって成り立つ1シーンです↓



袋をエプロンにしまおうとする友達に気が付き、「入れてあげる」ではなく入れられるようにお手伝いしています

「一人でじっくり」を十分に楽しみ、他者への興味をもつようになると、今度はその他者(友達)に”思い”があることに気が付きます。自分以外の”思い”に気が付いた時に初めてうまれる葛藤や”他を思う心”が芽生えます。時にぶつかり時に手を差し伸べ合いながら、育つ心があります。



涙するお友達に気が付いて集まる子ども達。“解決”を目的とせず、寄り添う気持ちを関りの中で経験しています。

### 4. 自分の気持ちにも、お友達の気持ちにも気付く経験を今まさに、重ねている子どもたち…

遊びの姿にも変化が見られます。



1人の子が作るトンネルの完成を待つ子ども達→完成したトンネルをくぐらせます…「倒れちゃう」と言ってドキドキ…→やっぱり倒れて大笑い!

(→トンネルが倒れたことを残念に思う子もいるかと連写で記録しましたが、4人ともこの後の写真は全員ぶれているほど、大笑いでした♡)

進級入園当初は一人の世界を楽しんでいた子ども達。今では「一緒に同じ世界(イメージ)」を楽しむ姿が見られます。「一緒に」は、時に思いの違いの経験となり、たくさん笑ってたくさん泣いて、育つ心を保育園でも見守っていきたいと思います。

